

Mission

老年人口(高齢者人口) ÷ 総人口 × 100 = 老年人口割合

超高齢社会を支え、 乗り切る志と使命感。

2010年、日本ではどの国よりも早く超高齢社会へと突入しました。宮城県において高齢者率は現在平均で27%を超えていると見られ、しかも県内の半数以上の市町で30%を超えています(平成30年宮城県調べ)。この高齢人口の急速な増加にともない、特に医療、福祉などの分野では高齢人口の問題に対応することが、喫緊の課題となっています。人口の比率が変わると、疾病構造の変化や、要介護者の数も急増します。在宅医療が推進されている状況下では、地域における人口の減少、過疎の進行もこれらの問題をより深刻なものにしています。



ますます広がる、薬剤師の活躍の場。

今後一層需要が高まる在宅ケア(医療)におけるチーム医療、OTC医薬品や医療・衛生材料の選定や健康相談などセルフメディケーションの推進、予防医療への積極的な取り組みなど、薬剤師が必要とされ活躍する場は、ますます広がっています。

自らの質の高い人生のためにも、皆さまが医療人の一員として、志と使命感を持って、この「みやぎの地」で羽ばたかれることを、宮城県と宮城県薬剤師会は応援しています。

【企画・制作連絡先】



宮城県保健福祉部薬務課

〒980-8570 仙台市青葉区本町3丁目8番1号
TEL : 022-211-2652
FAX : 022-211-2490
MAIL : yakumu-y@pref.miyagi.lg.jp

【研修・お問合せ先】



一般社団法人 宮城県薬剤師会

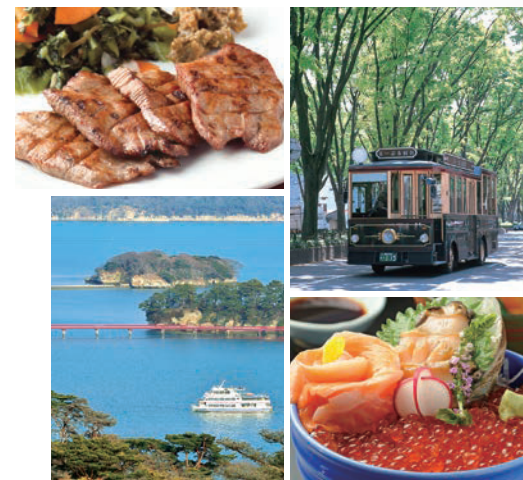
〒989-3126 仙台市青葉区落合2丁目15番26号
TEL : 022-391-1180
FAX : 022-391-6640
MAIL : info@mypha.or.jp

先輩薬剤師の みやぎ自慢

Boasting of Miyagi by pharmacists.

海と山が共にある豊かな自然、 多彩で豊富な食に恵まれた宮城県で 薬剤師として働きませんか？

患者さんと密にコミュニケーションをとり、
地域でサポートすること。
地方で働くからこそ得られる、
心からの“やりがい”や“学び”も多くあります。
宮城県には、皆さんの「明日を担う薬剤師」の力を
必要としている地域が多くあります。
地域の明日をより健やかなものにするために
薬剤師としてあなたの力を活かしませんか？



【仙台市宮城野区】調剤薬局ふるまプリエ 勤務
金澤 幸訓 さん(薬剤師歴7年・福島県須賀川市出身)
住まいが球場に近いので、シーズン中は楽天の応援へよく出かけます!みやぎには海山ともに美味しいものが豊富ですが、私のおススメは「定義山の三角油揚げ」。素朴なのに、味わい深いこの味がたまりません!
(2018年度当時)

【柴田郡大河原町】みやぎ県南中核病院薬剤部 勤務
黒田 和 さん(薬剤師歴2年・栃木県野木町出身)
県南には近くにつもりのスキー場があり気軽にウィンタースポーツが楽しめるので、私はスノボを満喫しています!春には白石川沿いの一目千本桜がとても見事で、つい誰かに自慢したくなります。
(2018年度当時)

海・山近く 住みよい宮城

日本でイチバン・初めてを集めて
各地域の魅力を紹介!

東日本大震災の医療現場で、
薬剤師は・・・

- 地域で医療を支える
薬剤師インタビュー
- 「被災地医療修学ツアー」レポート



※写真提供：宮城県観光課



いろいろあります!
宮城県の日本でイチバン・初めてを
集めてみました!!

生まれたふるさとや暮らす地域、その地への思いや愛着はさまざま。順番をつけるなんてもってのほか!とお叱りを受けてしまいそうですが、ここ宮城の『イチバン』や『初めて』をざっくりとあげてみました。県民性あるあるでは『のんびり型』と言われることの多い宮城ですが、思い切って地域の自慢からご紹介します。

こけし生産日本一
(大崎市鳴子温泉/刈田郡蔵王町)
※1 (2018年度当時)

日本一低い山(仙台市・日和山)
●震災により一時登録抹消となるが、2014年4月再び認定

笹かまぼこ生産日本一
(2018年度当時)

牛タン発祥
●昭和23年、仙台市中心部に牛タン焼き専門店誕生
●旅めしランキング日本一(2016年) ※1

光通信発祥
(東北大学)

硯生産日本一
(雄勝町)
(2018年度当時)

フィギアスケート発祥
(仙台城址お堀・五色沼)
●明治30年ごろとする説
●冬季五輪日本初の金メダル

カツオ・メカジキ・サメの水揚げ日本一
(気仙沼市) (2018年度当時) ※1

言わずと知れた冷やし中華発祥とされる説
(仙台市)

寿司屋日本一
(塩釜市) (2018年度当時)
●1キロm²あたりの密度

日本最大の交差点
(仙台市六丁の目) (2018年度当時)

せり生産日本一(名取市)
(2018年度当時)

パプリカ生産日本一 根菜支出も日本一
(2018年度当時)

日本最初の水力発電
(仙台市青葉区・三居沢)

日本一短い素麺(白石市)
●白石素麺(うーめん) (2018年度当時)

牡蠣の近代養殖
(石巻市)

オオハクチョウ飛来日本一(登米市)
(2018年度当時)

はらこ飯発祥
(亶理町) ※1

日本一長い運河(貞山運河・堀)
●およそ49Km/松島湾と阿武隈川を結ぶ (2018年度当時)

日本一のポート場(登米市)
●ポート8レーン・コース全長 2,000m (2018年度当時)

国内初のガンの集団検診(名取市)
●1960年

ご注意/これらの「日本でイチバン・初めて」については、諸説存在する項目や、統計年度によりランキングが変わる場合もありますので、あくまでも控えめに自慢して下さい。
【出典】※1の画像は宮城県観光課提供 (ほか特に表記のない画像は資料写真です。)

チームも、ファンも、サポーター・ブースターも熱い!

MIYAGI 3つのプロスポーツ

1999年東北初のプロサッカーチームとしてリーグで活躍している「ベガルタ仙台」。2013年日本一に輝いたプロ野球チーム「東北楽天ゴールデンイーグルス」。そして2005年に始動したプロバスケットチーム「仙台89ERS(エイティナイナーズ)」。地域密着型で、ゲームのみならず、さまざまなイベントを通じ、市民や県民との交流も盛ん。声援のそばで、笑顔の近くで、みんなが熱くなる。あなたも宮城の熱気を間近で体感してください。

地方薬剤師ライフって実は魅力的?!
県内のあちらこちらに**魅力**が点在。

週末を思いっきりエンジョイできるスポーツやスポット、イベント、グルメだっていっぱい。高速道路を利用することで県内各地をスムーズに駆けめぐることができます。

市町村を結ぶ アクセスもスムーズ!!

【県北】 栗原・大崎 エリア
豊かな自然と お米のふるさと

9種類もの温泉が湧き出している鳴子温泉郷は県下有数の紅葉の名所。ラムサール条約の登録湿地の「伊豆沼・内沼」は渡り鳥の聖地としても知られています。美味しいみやぎ米の代名詞「古川」の飲食店ではさまざまな郷土料理を楽しむことができます。

1.9種類の泉質が湧き出る鳴子温泉郷 2.美味しいみやぎ米 3.伊豆沼・内沼の渡り鳥

【沿岸】 登米・石巻・気仙沼 エリア
ロマン漂う街並みと 海鮮に舌鼓

宮城の明治村とも呼ばれている登米市には明治期に建てられた由緒ある多くの建造物が今もその姿を残しています。世界の3大漁場の一つとして数えられる三陸エリアでは新鮮な旬の魚介類を思う存分堪能。また海釣りなどのマリンスポーツも楽しめます。

1.気仙沼港とホヤばーや 2.登米町の日登米高等尋常小学校 3.旬の魚介類 4.代表的B級グルメ油麩井

【県南】 仙南 エリア
四季折々の風景と 歴史をめぐる

春は白石川堤の「一目千本桜」にはじまり、夏は大正時代にタイムスリップするかのような丸森町の「齋理幻夜」。晩夏から初秋は、各地に点在するキャンプ場で森林浴と満天の星空を楽しみましょう。みやぎ蔵王ではウインタースポーツで疲れた体を、温泉でゆったりと癒してください。

1.船岡・大河原の一目千本桜 2.丸森町の齋理幻夜 3.蔵王の自然が創り出す「樹氷」

【出典】丸森町観光案内所(県南エリア[2]の画像)、宮城県観光課(県北エリアの[1][3]、沿岸エリアの[2][3][4]、県南エリアの[1][3]の画像)(ほか特に表記のない画像は資料写真です。)

Column
Data 見る
#01 地域医療を支える薬剤師不足の現状

宮城県では「薬剤師の絶対数の不足」と「薬剤師の偏在」が大きな課題となっています。平成30年における宮城県と全国の人口10万人あたりの薬剤師数を比較すると、全国平均246.2人に対し、宮城県では235.5人と10人以下下まわっています。さらに、宮城県の中でも仙台市は313.7人と高い水準なのに対し、他のエリアでは大きく下まわり、都市部に薬剤師が集中する傾向が続いています。こうした絶対数の不足と偏在を解消し、地域医療を支え未来を担う、若手薬剤師の活躍に大きな期待が寄せられています。

人口10万人あたりの薬剤師数(小数点以下四捨五入) 出典: 宮城県

比較対象	薬剤師数(人)
宮城県と全国の比較	236 (宮城県), 246 (全国)
宮城県内の各エリアごとの比較	仙台エリア: 314, 塩釜エリア: 191, 仙南エリア: 163, 大崎エリア: 171, 栗原エリア: 168, 石巻エリア: 187, 登米エリア: 129, 気仙沼エリア: 133

東日本大震災の医療現場で、薬剤師は・・・



未だかつてなかった、過酷な経験の記憶。

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、宮城県内で最大震度7を観測したほか、巨大な津波が沿岸市町に押し寄せするなど、かつて経験のない甚大な被害をもたらしました。死者、行方不明者、合わせて11,786名。住家被害、全半壊等合わせて470,144棟。一瞬にして何もかも失いかけたような、あの時のふるさとの光景を、私たちは決して忘れることはありません。

窮地でも戦い続けた薬剤師たち。

津波被害を受けた石巻市・東松島市・女川町の石巻医療圏では多くの医療機関が機能を喪失。診療を続けられたのは石巻赤十字病院など、わずかな医療機関のみ。こうした状況下で高まったのが「薬の対応」という課題です。その解決策の一つが「メロンパンチーム」。医師、地元薬剤師、そして全国から集った薬剤師ボランティアが協力し、薬の配達や服薬指導を行いました。



写真提供:石巻赤十字病院

薬剤師の支援活動

避難所・救護所等での支援活動

東日本大震災において、避難所・救護所の被災者の方々は慢性疾患を抱えている方が多く、所持している医薬品も手持ちが少ない状況にありました。医薬品を手に入れにくい方々のため、「お薬相談」を実施し、おくすり手帳や医薬品情報をもとに、薬剤師が調剤や服薬指導、健康相談を行いました。また、避難所のような集団生活ではどうしてもノロウイルスなどの感染症が発生しやすくなります。そのため、「うがい・手洗い・換気」の徹底を指導し、生活衛生の改善に努めました。



写真提供:宮城県薬剤師会

震災発生直後から 絶やさず灯し続けた救命の炎。

石巻赤十字病院

震災の5年前に移転した石巻赤十字病院では、石巻の内陸部約5kmの蛇田地区に立地したため津波の被害を免れ、地域に残された医療機関として、震災の直後から災害対応の拠点となりました。地震発生約5分後には緊急対策本部を立ち上げ、医師や看護師はもちろんのこと、薬剤師や事務スタッフが至るすべてのスタッフが連携し、次々に迫る事態に対応ができたのは、以前より行ってきた訓練や災害対応マニュアルが功を奏しました。現在でも年に一度、約800名が参加する訓練が行われ、薬剤師もその態勢の中で重要な役割を担っています。



震災直後からの記録映像はYouTubeでも公開されています。
[▶ 【日本赤十字社】石巻赤十字病院～東日本大震災 初動の記録～](#)



壊滅的被害の中でも 住民に寄り添い、心を支えた。

女川町地域医療センター(旧女川町立病院)

町の約9割の住家が津波により被災した女川町。海拔16mの高台に建つ旧女川町立病院の1階部分にも津波が押し寄せ、衛星電話や薬局等がダメージを受けました。石巻市へ続く陸路はがれきが阻み孤立。地域の医療機関として施せる事はとても限定的でした。しかし絶望的な状況でも持てる能力を最大限に活かし、避難住民や患者さんに寄り添い、ときに励ます事で、孤立した町民の命を支え続けました。



津波に流された自動車が法面に…。
 出所：東日本大震災アーカイブ宮城(女川町)
 提供者：女川町



1.津波にえぐられた建物(手前)と市立病院
 2.病院はがれきと浸水に阻まれ孤立した
 3-4.現在の日和山から見える南浜地区と当時の様子を語る石巻薬剤師会の渋谷会長
 【1-2の画像の出典】出所：東日本大震災アーカイブ宮城(石巻市)／提供者：石巻市

孤立し機能を失った拠点病院。

石巻の市街地の南側、南浜地区。もしもの災害時、陸路が絶たれた際の海上搬送などを想定し、このエリアに建てられた旧石巻市立病院でしたが、皮肉にも東日本大震災の津波は、ここを容赦なく襲いました。近くの旧北上川河口に架かる日和大橋には、その津波がおおよそ16mに達した形跡も…。さらに、地震による地盤沈下でこのエリアは翌日になっても浸水が解消せず、入院患者・職員・避難した周辺住民を含んだ約450名が病院内に孤立。ここから最後の職員が救出されたのは震災から5日後のこと。歯がゆくも県内第二の都市の中心部にある医療拠点がこのように機能を失ってしまいました。



宮城県薬剤師会主催の被災地医療修学ツアーに参加した学生たち

Pick Up 災害対応医薬品供給車両 震災リスクに立ち向かう モバイルファーマシー



宮城県薬剤師会では、東日本大震災の経験を踏まえ、被災下でも散剤・水剤をはじめ各種医薬品が調剤・供給ができる「災害対応医薬品供給車両」Mobile Pharmacyを日本で初めて実現しました。医療チーム支援システムや災害支援拠点管理システムと一体的に運用することで、被災地での円滑な医薬品供給を実現するとともに、調剤履歴を記録し、継続的な診療を支援します。



内部には災害時にも対応できるように、薬を収める錠剤棚や、粉薬を包むための散剤分機、電子天秤や保冷库、水剤の調剤用の清水タンクが備わっています。

Column Data 見る #02

各地の地震災害における被害状況の比較

東日本大震災における犠牲者の大半が地震直後の津波による溺死者で、負傷者数では新潟県中越地震よりも少ない統計でした。ここでは災害の種類と発生地域の特性等による被害状況の違いが読み取れますが、注視すべきポイントは災害関連死や長期の避難所

生活からくるストレスの蓄積・運動不足、慣れない仮設住宅の生活からくる体調変化や持病の悪化、低下した衛生状態による疫病など様々です。このように災害の発生から時間軸で変化する被災地のニーズをとらえて対応する事が重要となってきます。

被害状況の比較

	阪神淡路大震災	新潟県中越地震	東日本大震災			
発生日時	1995年1月17日 5:46	2004年10月23日 17:56	2011年3月11日 14:46			
発生地区	淡路島北部	新潟県中越地方	三陸沖 130km			
規模/最大震度/震源の深さ	M7.3 / 震度7 / 16km	M6.8 / 震度7 / 13km	M9.0 / 震度7 / 24km			
主な被災県	兵庫県	新潟県	岩手県、宮城県、福島県			
津波	なし	なし	15～16m			
人的被害者	死者	6,434名	死者	68名	死者	18,027名
	行方不明者	3名	行方不明者	0名	行方不明者	2,825名
	負傷者	43,792名	負傷者	4,805名	負傷者	4,524名
死因	圧死	83.3%	避難中のエコノミークラス症候群や疲労・ストレス等	45.6%	溺死	90.6%
	焼死	12.8%	地震によるショック	25.0%	圧死・損壊死・その他	4.2%
	不詳	3.9%	建物の倒壊や土砂崩れ等による圧死など	23.5%	焼死	0.9%
			その他	5.9%	不詳	4.3%

出典：兵庫県、消防庁、警察庁

担い手に聞く、熱き想い。

Interview Pharmacist **01** 【仙南エリア】
有限会社メディファル
コスモ薬局



より幅広い視野を持ち、
フィールドを多方面に展開。

地域の皆様の身近で頼りになる医療人の一人であることをモットーとしています。調剤や無菌調整、医療材料の供給に加え、OTC(一般用医薬品)の相談・販売なども行なっています。薬局業務以外でも必要とされる場は多方面にあり、薬剤師不足と言われる仙南エリアでは、職能を生かして幅広く活躍できる機会が沢山あります。



角田市は、阿武隈川が運ぶ肥沃な土壌に育まれた美味しい米や野菜が豊富。自転車で川沿いを走ると、その自然の豊かさを実感できます。

例えば、仙南夜間初期急患センターでの調剤業務や学校薬剤師としての活動が挙げられます。普段の業務とはそれぞれ別の刺激があり、やりがいを感じています。薬局は町のファーストアクセスの場で有り、薬剤師は医療と介護と家族をつなぐ大切な職種です。一次予防・二次予防の啓蒙はもとより、在宅医療においても重要な存在となっています。

Interview Pharmacist **02** 【沿岸エリア】
カメイ調剤薬局
石巻店



生まれ育ったふるさとで、
地域に根ざし、患者さんと共に。

総合病院の処方せんを受ける機会が多く、生活習慣病や免疫疾患、癌など多様な分野の薬を扱っています。特に心がけていることは、患者さんの病状や症状に対して薬の用法用量が適切かどうかなど、細心の注意でチェックすることです。患者さんからの「ありがとう」の言葉や笑顔にやりがいを感じ、励みにもなっています。



牛タンも、新鮮なお魚も大好き!美味しいものをたくさん味わえて、つくづく幸せだなあと感じます。いつかは、お魚をカッコよくさばける事が目標ですね…。

また、患者さんと地元なまりや方言で楽しく接することで関係性が円滑になることも。仕事で気になる点は、予想以上の残薬を手にし再来される患者さん方がいることです。その時に、服薬アドヒアランスが重要だと感じます。今の目標は指導薬剤師資格を取得し、学生さん達へ地域の調剤薬局の役割や意義、石巻で働く魅力を伝えていくことです。



ABE
TAKATOSHI

【白石市出身】管理薬剤師 PROFILE
阿部 孝俊 さん (薬剤師歴6年)
(2018年度当時)

みやぎ県南中核病院での勤務を経て現在に至る。治療や予防、健康維持には栄養の大切さも伝えていく必要がある考え、NST(栄養サポートチーム)専門療法士資格取得へチャレンジ中。



TAKAHASHI
MIKI

【石巻市出身】薬剤師 PROFILE
高橋 美樹 さん (薬剤師歴2年)
(2018年度当時)

現在の職場で学生実習を体験。その際に職場環境が充実していることに感銘したことで、住みなれた地元でもあることで就職を希望。休日には友人や家族と石巻や県内各地のグルメを堪能。

被災地医療修学ツアー

Date:2018.11.29
Ishinomaki
Onagawa

ここでは、薬剤師不足対策の一環として宮城県薬剤師会が主催する『被災地医療修学ツアー』の様子をご紹介します。2018年11月29日、この日は今年度2回目のツアー実施。現在、大学で薬学を学ぶ35名の学生さんが石巻・女川地区の沿岸被災地域を巡りました。

ツアーレポート
TOUR REPORT

01 8:30 (出発)
出発 仙台駅

02 9:20 (見学・講話)
見学・講話 大川小学校跡地
児童・教職員84名が津波の犠牲となった大川小。被害の様子を伝えるメニューに鎮魂の祈りをささげました。

03 10:40 (見学)
見学・講話 日和山公園
地域の人々が避難した日和山公園で、当時の市街地の被害の様子を伺いました。

04 11:50 (見学・講話)
ランチ いしのまき元気市場
震災後に三陸・石巻の「元気」と「おいしい」を発信する観光施設で、浜の幸を堪能しました。

05 12:40 (ランチ)
14:30 (見学・講話)
18:00 (終了)
終了 仙台駅

【講師】薬剤師・薬剤師/部長 佐賀 利英さん、課長 阿部 浩幸さん、係長 追木 正人さん

地域で津波被害を免れた医療機関として、震災直後から不眠不休で災害対応にあたった当時の様子を伺いました。

【講師】女川町地域医療センター・医師/齋藤 充さん

震災直後の対応と地域の医療課題のお話や、現在、同敷地内に町で唯一運営されている薬局を見学しました。

【講師】石巻薬剤師会 会女川薬局と宮城県薬剤師会のモバイルファーマシーを見学しました。

この他にも移動中のバスの中では、震災当時に様々な活動を行った宮城県薬剤師会や石巻薬剤師会の先生方から、様々なお話も伺いました。

参加者の声



災害医療の実践に
想いを馳せる。

地震発生直後の石巻赤十字病院の初動を動画で拝見、写真で見るとより医療現場の一層の緊迫感が伝わってきました。日本は地震のみならず災害大国です。災害により医療ニーズも変化します。どのような状況下でも的確に対応できる薬剤師になれるよう精進したいです。

久保 佳彦 さん (東北医科薬科大学5年)
(2018年度当時)



薬剤師に求められる
震災直後の対応力。

医薬品集積場での仕分け、的確で迅速な医薬品の準備と供給。さらに避難所全体の公衆衛生。薬剤師はチーム医療の重要な一員であり、救護班との連携やボランティアへの助言なども任務に含まれます。数多くの事例を通じ有意義に学ぶことができました。

富田 早紀 さん (東北医科薬科大学5年)
(2018年度当時)



被災地に寄り添う
医療の大切さを知る。

緊急事態が続く震災時に医療人がどのように判断し、行動したのか。その震災を通じて今後の医療にどのような影響と課題を与えているのか。その中で薬剤師の役割が多岐に渡ることを実感しました。薬剤師を目指す自分自身の視野が大きく広がりました。

木次谷 実篤 さん (東北医科薬科大学5年)
(2018年度当時)